

2020年主要文献目録

(2020年刊行の文献を掲載対象としている)

* 国際法、国際私法の雑誌名は原則として法律編集者懇話会のものを使用した。略語表は『法律関係8学会共通会員名簿』又は『法律時報』92巻13号(2020年12月)を参照。

国際政治・外交史

著書

【一般】

アイリス・マリオン・ヤング(著),飯田文雄、荻田 真司、田村 哲樹(監訳),河村 真実、山田 祥子(訳)	正義と差異の政治	法政大学出版局
明石 純一	人の国際移動は管理されるのか—移民をめぐる秩序形成とガバナンス構築	ミネルヴァ書房
赤星 聖	国内避難民問題のグローバル・ガバナンス—アクターの多様化とガバナンスの変化	有信堂
阿部 松盛	国際政治学—グローバル政治の理論、歴史、現代的課題	テイハン
五十嵐 誠一、酒井 啓子(編)	ローカルと世界を結ぶ	岩波書店
石津 朋之	総力戦としての第二次世界大戦—勝敗を決めた西方戦線の激闘を分析	中央公論新社
伊藤 隆太	進化政治学と国際政治理論—人間の心と戦争をめぐる新たな分析アプローチ	芙蓉書房
稲垣 文昭、玉井 良尚、宮脇 昇(編)	資源地政学—グローバル・エネルギー競争と戦略的パートナーシップ	法律文化社
井上 実佳、川口 智恵、田中(坂部)有佳子、山本 慎一(編著)	国際平和活動の理論と実践—南スーダンにおける試練	法律文化社
イワン・クラステフ(著),山田 文(訳)	コロナ・ショックは世界をどう変えるか—政治・経済・社会を襲う危機	中央公論新社
榎本 珠良	武器貿易条約—人間・国家主権・武器移転規制	晃洋書房
大澤 傑	独裁が揺らぐとき—個人支配体制の比較政治	ミネルヴァ書房
大中 真	マーティン・ワイトの国際理論—英国学派における国際法史の伝統	国際書院
北川 敬三	軍事組織の知的イノベーション—ドクトリンと作戦術の創造力	勁草書房
カリン・ウォール＝ヨルゲンセン(著),三谷 文栄、山腰 修三(訳)	メディアと感情の政治学	勁草書房
小林 良樹	テロリズムとは何か—恐怖を読み解くリテラシー	慶応義塾大学出版会
駒井 洋(監修),小林 真生(編)	変容する移民コミュニティ—時間・空間・階層	明石書店
コリン・グレイ(著),奥山 真司(訳)	戦略の格言【普及版】—戦略家のための40の議論	芙蓉書房
酒井 啓子(編)	グローバル関係学とは何か	岩波書店
芝崎 厚士	国際文化交流と近現代日本 —グローバル文化交流研究のために	有信堂
J・C・ワイリー(著),奥山 真司(訳)	戦略論の原点【新装版】—軍事戦略入門	芙蓉書房
ジェームズ・ホームズ(著),平山 茂敏(訳)	海洋戦略入門—平時・戦時・グレーゾーンの戦略	芙蓉書房
庄司 潤一郎、石津 朋之(編)	地政学原論	日本経済新聞出版社
城崎 英明(編)	グローバル保健ガバナンス	東信堂
末近 浩太、遠藤 貢(編)	紛争が変える国家	岩波書店
菅 英輝	競合する歴史認識と歴史和解	晃洋書房

スティーヴン・クラズナー(編),河野勝(監訳)	国際レジーム	勁草書房
高橋 良輔、山崎 望(編)	時政学への挑戦—政治研究の時間論的転回	ミネルヴァ書房
多賀 秀敏	平和学入門1	勁草書房
多賀 秀敏	平和学入門2	勁草書房
託摩 佳代	人類と病—国際政治から見る感染症と健康格差	中央公論新社
多湖 淳	戦争とは何か—国際政治学の挑戦	中央公論新社
田中 拓道	リベラルとは何か—17世紀の自由主義から現代日本まで	中央公論新社
ダニエル・エルズバーグ(著),宮前 ゆかり、荒井 雅子(訳)	世界滅亡マシン—核戦争計画者の告白	岩波書店
谷口 将紀、穴戸 常寿	デジタル・デモクラシーがやってくる！—AIが私たちの社会を変えるんだったら、政治もそのままってわけにはいかないんじゃない？	中央公論新社
田野 大輔	ファシズムの教室—なぜ集団は暴走するのか	大月書店
田村 哲樹、近藤 康史、堀江 孝司	政治学	勁草書房
土屋 大洋	サイバーグレートゲーム—政治・経済・技術とデータをめぐる地政学	千倉書房
中井 愛子	国際法の誕生—ヨーロッパ国際法からの転換	京都大学学術出版会
中村 桂子	核のある世界とこれからを考えるガイドブック	法律文化社
納家 政嗣(編)	自由主義的国際秩序は崩壊するのか	勁草書房
西田 充	核の透明性—米ソ・米露及びNPTと中国への適用可能性	信山社
ピエール・ロザンヴァロン(著),古城 毅、赤羽 悠、安藤 裕介、稲永 祐介、永見 瑞木、中村 督(訳)	良き統治—大統領化する民主主義	みすず書房
平石 正美、五味 太始、古坂 正人(編)	政治学入門	成文堂
布施 将夫	近代世界における広義の軍事史—米欧日の教育・交流・政治	晃洋書房
福井 康人	通常兵器軍縮論	東信堂
福島 康仁	宇宙と安全保障—軍事利用の潮流とガバナンスの模索	千倉書房
福田 耕治、坂根 徹	国際行政の新展開—国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス	法律文化社
福田 宏、後藤 絵美(編)	「みえない関係性」をみせる	岩波書店
マーガレット・ムーア(著),白川 俊介(訳)	領土の政治理論	法政大学出版局
政所 大輔	保護する責任—変容する主権と人道の国際規範	勁草書房
マデレーン・オルブライト(著),白川 貴子、高取 芳彦(訳)	ファシズム—警告の書	みすず書房
マルチメディア振興センター(編)	世界のAI戦略—各国が描く未来創造のビジョン	明石書店
水島 治郎(編)	ポピュリズムという挑戦—岐路に立つ現代デモクラシー	岩波書店
宮岡 勲	入門講義 安全保障論	慶応義塾大学出版会
森 彰夫	グローバル・コモンズのための国際関係論	彩流社

リチャード・J. バーンスタイン(著),齋藤元紀(監訳)、梅田孝太、大久保歩、大森一三、川口茂雄、渡辺和典(訳)	暴力—手すりなき思考	法政大学出版局
リチャード・フォーク(著),前田幸男、千葉真、小林誠、小松崎利明、清水奈名子(訳)	パワー・シフト—新しい世界秩序に向かって	岩波書店
ロバート・グッディン(著),松野弘(監訳・監訳),太田義器、丸田健(訳)	緑の政治理論	ミネルヴァ書房

【日本関係】

天児慧、高原明生、菱田雅晴(編)	証言 戦後日中関係秘史	岩波書店
五百旗頭薫	<嘘>の政治史—生真面目な社会の不真面目な政治	中央公論新社
板山真弓	日米同盟における共同防衛体制の形成—条約締結から「日米防衛協力のための指針」策定まで	ミネルヴァ書房
上原兼善	黒船来航と琉球王国	名古屋大学出版会
大矢根聡	国際関係理論と日本外交史 —「分断」を乗り越えられるか	勁草書房
笠原十九司	憲法九条と幣原喜重郎—日本国憲法の原点の解明	大月書店
加藤哲郎	パンデミックの政治学—「日本モデル」の失敗	花伝社
加藤聖文	海外引揚の研究—忘却された「大日本帝国」	岩波書店
加藤博章	自衛隊海外派遣の期限	勁草書房
川島真、清水麗、松田康博、楊永明	日台関係史 1945-2020 増補版	東京大学出版会
川名晋史	基地の消長 1968-1973—日本本土の米軍基地「撤退」政策	勁草書房
木村幹	歴史認識はどう語られてきたか	千倉書房
工藤美知尋	苦悩する昭和天皇—太平洋戦争の実相と『昭和天皇実録』	芙蓉書房
熊本史雄	近代日本の外交史料を読む	ミネルヴァ書房
黒川伊織	戦争・革命の東アジアと日本のコミュニスト	有志舎
康誠賢(著),鄭栄桓(監訳),古橋綾(訳)	歴史否定とポスト真実の時代—日韓「合作」の「反日種族主義」現象	大月書店
古関彰一	対米従属の構造	みすず書房
竹内祐介	帝国日本と鉄道輸送—変容する帝国内分業と朝鮮経済	吉川弘文館
武田康裕(編)	論究 日本の危機管理体制—国民保護と防災をめぐる葛藤	芙蓉書房
塚本英樹	日本外交と対中国借款問題—「援助」をめぐる協調と競合	法政大学出版局
谷口将紀	現代日本の代表制民主政治—有権者と政治家	東京大学出版会
デイヴィッド・ランシマン(著),若林茂樹(訳)	民主主義の壊れ方—クーデタ・大惨事・テクノロジー	白水社
友利廣(編)	沖縄—平和への道標	芦書房

野添 文彬	沖縄米軍基地全史	吉川弘文館
服部 龍二	外交を記録し、公開する—なぜ公文書管理が重要なのか	東京大学出版会
東アジア共同体研究所琉球・沖縄センター(編)	虚構の新冷戦—日米軍事一体化と敵基地攻撃論	芙蓉書房
牧野 雅彦	不戦条約—戦後日本の原点	東京大学出版会
松島 泰勝	帝国の島—琉球・尖閣に対する植民地主義と闘う	明石書店
松本 和也	イエズス会がみた「日本国王」—天皇・将軍・信長・秀吉	吉川弘文館
村山 俊夫	つくられる「嫌韓」世論—憎悪を生み出す言論を読み解く	明石書店
望月 和彦、松村 昌廣、村山 高康	甦る国際権力政治—ポスト・グローバリゼーションと日本	芦書房
八代 拓	蘭印の戦後と日本の経済進出—岸・池田政権下の日本企業	晃洋書房
芳井 研一	難民たちの日中戦争—戦火の奪われた日常	吉川弘文館
吉田 敏浩	日米安保と砂川判決の黒い霧—最高裁長官の情報漏洩を訴える国賠訴訟	彩流社
ラン・ツヴァインゲンバーグ(著)、若尾祐司、西井 麻里奈、高橋 優子、竹本 真希子(訳)	ヒロシマ—グローバルな記憶文化の形成	名古屋大学出版会
渡辺 治	安倍政権の終焉と新自由主義政治、改憲のゆくえ—「安倍政治」に代わる選択肢を探る	旬報社

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

伊藤 融	新興大国インドの行動原理—独自リアリズム外交のゆくえ	慶応義塾大学出版会
閻 学通(著)、宋 寧而、姜 春潔(訳)	世界権力の移行—中国の道義的現実主義の道	晃洋書房
加納 雄大	東南アジア外交—ポスト冷戦期の軌跡	信山社
川島 真(編)	現代中国を読み解く三要素	勁草書房
川村 晃一(編)	2019年インドネシアの選挙—深まる社会の分断とジョコウィの再選	アジア経済研究所
木村 幹、田中 悟、金 容民(編著)	平成時代の日韓関係—楽観から悲観への三〇年	ミネルヴァ書房
熊倉 潤	民族自決と民族団結—ソ連と中国の民族エリート	東京大学出版会
児玉 昌己、伊佐 淳(編)	グローバル時代のアジアの国際協力—過去・現在・未来	芦書房
在日韓人歴史資料館(編)、李 成市(監修)	東アジアのなかの二・八独立宣言—若者たちの出会いと夢	明石書店
坂元 一哉	日米同盟の絆—安保条約と相互性の模索 増補版	有斐閣
佐藤 幸人、小笠原 欣幸、松田 康博、川上 桃子	蔡英文再選—2020年台湾総統選挙と第2期蔡政権の課題	アジア経済研究所
佐橋 亮(編)	冷戦後の東アジア秩序—秩序形成をめぐる各国の構想	勁草書房
鈴木 啓之	蜂起〈インティファダ〉—占領下のパレスチナ 1967-1993	東京大学出版会
園田 茂人	アジアの国民感情—データが明かす人々の対外認識	中央公論新社
多賀 秀敏、五十嵐 誠一(編)	東アジアの重層的サブリージョンと新たな地域アーキテクチャ	勁草書房
陳 肇斌	中国市民の朝鮮戦争—海外派兵をめぐる諸問題	岩波書店
田中 明彦、川島 真(編)	20世紀の東アジア史	東京大学出版会
谷口 美代子	平和構築を支援する—ミンダナオ紛争と和平への道	名古屋大学出版会
外山 文子	タイ民主化と憲法改革—立憲主義は民主主義を救ったか	京都大学学術出版会

玉木 寛輝	昭和期政軍関係の模索と総力戦構想—戦前・戦中の陸海軍・知識人の葛藤	慶応義塾大学出版会
豊田 知世、濱田 泰弘、福原 裕二、吉村 慎太郎(編)	現代アジアと環境問題—多様性とダイナミズム	花伝社
中居 良文(編)	中国の南向政策	御茶の水書房
中村 覚(監修)、末近 浩太(編著)	シリア・レバノン・イラク・イラン	ミネルヴァ書房
中村 覚(監修)、浜中 新吾(編著)	イスラエル・パレスチナ	ミネルヴァ書房
西川 佳秀	ヘゲモニーの現代世界政治—米中の覇権争奪とイスラム台頭の時代	晃洋書房
朴 光駿	朝鮮王朝の貧困政策—日中韓比較研究の視点から	明石書店
浜中 新吾、青山 弘之、高岡 豊(編)	中東諸国民の国際秩序観—世論調査による国際関係認識と越境移動経験・意識の計量分析	晃洋書房
古川 浩司、ルルケド薫(編)	知っておきたいパラオ—ボーダーランズの記憶を求めて	北海道大学出版会
龐 宏亮(著)、安田 淳(監訳)	中国軍人が観る「人に優しい」新たな戦争 知能化戦争	五月書房
松本 はる香	〈米中新冷戦〉と中国外交—北東アジアのパワーポリティクス	白水社
山本 健介	聖地の紛争とエルサレム問題の諸相—イスラエルの占領・併合政策とパレスチナ人	晃洋書房
吉川 卓郎	ヨルダンの政治・軍事・社会運動—倒れない王国の模索	晃洋書房
ラルフ・タウンゼント(著)、田中 秀雄、先田 賢紀智(訳)	暗黒大陸中国の真実【新装版】	芙蓉書房
李 正吉	韓国政治の転換点—「分断」と民主主義の政治力学 単行本	国際書院
李 鍾元、木宮 正史、浅野 豊美(編)	歴史としての日韓国交正常化 I〈新装版〉—東アジア冷戦編	法政大学出版局
李 鍾元、木宮 正史、浅野 豊美(編)	歴史としての日韓国交正常化 II〈新装版〉—脱植民地化編	法政大学出版局
六四回顧録編集委員会(編)	証言 天安門事件を目撃した日本人たち—「一九八九年六月四日」に何が起きたのか	ミネルヴァ書房
若林 正丈、家永 真幸(編)	台湾研究入門	東京大学出版会

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

青野 利彦、倉科 一希、宮田 伊知郎(編著)	現代アメリカ政治外交史—「アメリカの世紀」から「アメリカ第一主義」まで	ミネルヴァ書房
飯田 文雄	多文化主義の政治学	法政大学出版局
板倉 孝信	ポスト財政=軍事国家としての近代英国	晃洋書房
伊藤 定良	改定新版 異教と故郷—近代ドイツとルール・ポーランド人	有志舎
臼井 陽一郎(編)	変わりゆくEU—永遠平和のプロジェクトの行方	明石書店
岡山 裕	アメリカの政党政治—建国から250年の軌跡	中央公論新社
長 有紀枝	スレブレニツァ・ジェノサイド—25年目の教訓と課題	東信堂
神江 沙蘭	金融統合の政治学—欧州金融・通貨システムの不均衡な発展	岩波書店
木村 雅昭	大英帝国の盛衰—イギリスのインド支配を読み解く	ミネルヴァ書房
塩川 伸明	歴史の中のロシア革命とソ連	有志舎
志田 淳二郎	米国の冷戦終結外交 —ジョージ・H・W・ブッシュ政権とドイツ統一	有信堂
島本 マヤ子	ヘンリー・A・ウォレス—孤高の政治家が目指した核なき世界	大阪大学出版会
シモナス・ストレルツォーバス(著)、赤羽 俊昭(訳)	第二次大戦下リトアニアの難民と杉原千畝—「命のヴィザ」の真相	明石書店
谷光 太郎	ドイツ海軍興亡史—創設から第二次大戦敗北までの人物群像	芙蓉書房

立石 洋子	スターリン時代の記憶—ソ連解体後ロシアの歴史認識論争	慶応義塾大学出版会
中川 洋一	ドイツはシベリアンパワーか、普通の大国か？—ドイツの外交政策と政策理念の危機と革新	法律文化社
平井 一臣	ベ平連とその時代—身振りとしての政治	有志舎
福原 宏幸、中村 健吾、柳原 剛司 (編)	岐路に立つ欧州福祉レジーム—EUは市民の新たな連帯を築けるか？	ナカニシヤ出版
ベン・ステイル(著)、小坂 恵理(訳)	マーシャル・プラン—新世界秩序の誕生	みすず書房
ポール・ケネディ(著)、山本 文史(訳)	イギリス海上覇権の盛衰—シーパワーの形成と発展 上	中央公論新社
ポール・ケネディ(著)、山本 文史(訳)	イギリス海上覇権の盛衰—シーパワーの形成と発展 下	中央公論新社
マイケル・マクフォール(著)、松島 芳彦(訳)	冷たい戦争から熱い平和へ 上—プーチンとオバマ、トランプの米露外交	白水社
マイケル・マクフォール(著)、松島 芳彦(訳)	冷たい戦争から熱い平和へ 下—プーチンとオバマ、トランプの米露外交	白水社
山本 卓	二〇世紀転換期イギリスの福祉再編 リスペクタビリティと貧困	法政大学出版局
吉野 孝、前嶋 和弘(編)	危機のアメリカ「選挙デモクラシー」—社会経済変化からトランプ現象へ	東信堂
ラルフ・タウンゼント(著)、田中 秀雄、先田 賢紀智(訳)	続 暗黒大陸中国の真実—ルーズベルト政策批判 1937-1969	芙蓉書房
リチャード・フォーク(著)、川崎 孝子(監訳)、川崎 晋(共訳)	人道的介入と合法的闘い—サブタイトル 21世紀の平和と正義を求めて	東信堂
ローベルト・ゲルヴァルト(著)、大久保 里香、小原 淳、紀 愛子、前川 陽祐(訳)	史上最大の革命—1918年11月、ヴァイマル民主政の幕開け	みすず書房

【資料】

経済協力開発機構(OECD)、アジア開発銀行(ADB)(著)、平井 文三(訳)	図表でみるASEAN諸国の行政改革 OECDインディケーター(2019年版)	明石書店
経済協力開発機構(OECD)(著)、平井 文三(訳)	図表でみる世界の行政改革 OECDインディケーター(2019年版)	明石書店
中国研究所(編)	中国年鑑 2020	明石書店
平和安全保障研究所(編)、西原 正(監修)	アジアの安全保障2020-2021	朝雲新聞社
防衛研究所(編)	東アジア戦略概観2020	アーバン・コネクションズ

論文(国際政治・外交史)

【一般】

秋元 悠	ウィルソンの国際秩序思想：進歩主義に支えられた「被治者の同意」原則の国内類推	国際政治198
浅野 良成	報道量の党派的バイアスと外交争点の認知	年報政治学2020(2)
有江 浩一	人工知能技術が核抑止に及ぼす影響	安全保障戦略研究1(1)

泉川 泰博	日本国際政治学会の安全保障研究(日本国際政治学会 制度整備・自己点検タスクフォース報告書『日本の国際政治学：日本国際政治学会における研究の系譜と特徴』第1章)	国際政治199
一政 祐行	核弾頭の解体・廃棄と「有志国検証アプローチ」— 核兵器禁止条約(TPNW)の検証制度整備に向けた一考察 —	安全保障戦略研究1(2)
伊藤 隆敏	ポストコロナの世界経済秩序	国際問題696
井上 正也	日本の国際政治学における日本外交史(日本国際政治学会 制度整備・自己点検タスクフォース報告書『日本の国際政治学：日本国際政治学会における研究の系譜と特徴』第3章)	国際政治199
浦辺 徹郎	新型コロナウイルス後の海洋国際協力	国際問題693
永福 誠也	機雷の開発と使用に必要な考慮— 国際法上の観点から —	安全保障戦略研究1(1)
大久保 伸一	国連安保理決議に基づく制裁レジームの実効性評価に関する一考察	国際安全保障48(3)
大西 健	平和作戦における軍事力行使— 国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション(MINUSCA) —	安全保障戦略研究1(1)
大原俊 一郎	大国政治における協調と多国間主義：ヨーロッパ協調と戦間前期国際システムの基本枠組みをめぐる比較分析	グローバル・ガバナンス6
大矢根 聡	日本の国際政治学：仕切られた対話からの共創?(日本国際政治学会 制度整備・自己点検タスクフォース報告書『日本の国際政治学：日本国際政治学会における研究の系譜と特徴』序章)	国際政治199
勝間 靖	「すべての人に健康を」の国際的潮流におけるUHCの推進：健康への権利、PHC、SDGsを背景として	国連研究21
上村 直樹	日本におけるアメリカ政治外交研究と『国際政治』(日本国際政治学会 制度整備・自己点検タスクフォース報告書『日本の国際政治学：日本国際政治学会における研究の系譜と特徴』第4章)	国際政治199
河越 真帆	国際航空の排出量規制：EUとICAOにおける非国家アクターの役割の考察	グローバル・ガバナンス6
川畑 東陽	民間気候資金の動員に向けたオーケストレーションによるガバナンス	グローバル・ガバナンス6
木本 昌秀	気候変動に向き合う	国際問題692
黒澤 満	核軍縮と国連	国連研究21
小林慶一郎、佐藤主光	ポストコロナの政策構想：税制の国際協調による財政再建を	国際問題696
芝崎 厚士	日本の国際関係研究における「固有の課題」と「共有の方法」：国際文化交渉論の視点から	国際政治200
高木 耕一郎	新領域に広がる将来戦と「戦場の霧」：古典的用兵思想の視点から見た情報通信技術の発達と新領域(宇宙、サイバー、電磁波)における戦闘	国際安全保障48(3)
高橋 敏哉	ウォルファースとラスウェルの国家安全保障論の含意：能力強化に隠れた国内政策への道標	年報政治学2020(2)
詫摩 佳代	感染症と国際協調：新型コロナウイルスへの対応には何が必要か?	国際問題695
鶴田 順	海のプラスチックごみ問題：国際社会の対応、日本の対応	国際問題693
戸田 隆夫	「コロナ禍の途上国」を通じて可視化される「新世界」	国際問題697
富川 英生、山口 信治	ロボット工学・自律型システム・人工知能(RAS-AI)に関する技術開発の動向と自律型兵器システム(AWS)の運用についての展望—米・中・露を中心に—	防衛研究所紀要22(2)
内記 香子	国際政治における国際裁判所：国家と国際裁判所の関係性の捉え方	国際政治200
中西 寛	2020年の劈頭に考える国際秩序の行方	国際問題690
西村 弓	IUU漁業規制に関する国際規律の展開	国際問題693
萩原 優理奈	国連のヘイトスピーチへの取り組みにおけるラバト行動計画と国連戦略・行動計画の意義	国連研究21

原田 有	サイバー空間での規範形成に向けた取組の現状と展望に関する実験的考察— 自由主義陣営と権威主義陣営が繰り広げる「両性の闘い」に着目して—	安全保障戦略研究1(1)
藤木 剛康	マーシャルプランと一帯一路-アクターとガバナンスの観点から-	グローバル・ガバナンス6
藤澤 巖	海面上昇による気候変動避難民と国際法の対応	国際問題693
藤田 将史	「有効性の低い国際制度」の有効性：国内機能としての批判回避	年報政治学2020(1)
古澤 泰治	国際貿易をめぐる環境はどう変わっていくのか	国際問題689
細谷 雄一	リベラルな国際秩序と日本外交	国際問題690
堀内 めぐみ	国際関係理論はどこまで普遍性を有するのか：西田幾多郎を手掛かりに	国際政治201
堀口 健夫	ロンドン海洋投棄条約体制による二酸化炭素回収・貯留(CCS)の規律の意義と限界	国際問題693
前田 祐司	地政学の再考— 地政学と米国の台湾防衛コミットメント—	安全保障戦略研究1(2)
前田 幸男	構造的暴力論から「緩慢な暴力」論へ：惑星平和学に向けた時空認識の刷新に向けて	平和研究54
松下 和夫	気候危機：日本は何をすべきか？	国際問題692
真山 全、山田 尊也	船舶自動識別装置(AIS)データによる国際海峡認定：国際海峡の日本領水内の存在可能性に関する海洋法的試論	国際安全保障47(4)
光辻 克馬、山影 進	<複雑適応系>国際政治学の可能性：<自己組織化>と<創発>を組み込んだ国際関係理解へのパラダイム・シフトを求めて	国際政治200
持永 大	サイバー空間が制裁に与える影響	国際安全保障48(2)
山下 光	平和構築における自由主義とハイブリッド性	安全保障戦略研究1(1)
山田 哲也	国連と大国：「自国第一主義」と「グローバル・ガバナンス」の時代に	国連研究21
山本 太郎	感染症と国際問題	国際問題695
ユ ジョン	WTO体制の制度疲労：貿易、安全保障、技術の変遷	国際問題689
和田 洋典	日本における国際政治経済研究の特徴と課題（日本国際政治学会 制度整備・自己点検タスクフォース報告書『日本の国際政治学：日本国際政治学会における研究の系譜と特徴』第2章）	国際政治199

【日本関係】

岩佐 有子	在日米軍軍事顧問機関に関する研究— 陸上自衛隊の草創期を中心に—	安全保障戦略研究1(1)
上杉 勇司	普天間飛行場の返還を阻む構造的要因の考察：日米軍事戦略の視点から	平和研究54
太田 宏	環境と資源問題をめぐる国際政治と日本	国際政治200
桐谷 多恵子	沖縄の被爆者問題の再考察：現代における証言の意味	平和研究54
小松 寛	平和研究と「沖縄問題」：三たび平和と自立について	平和研究54
島袋 純	日本の政治の根幹をなす沖縄への暴力：国際人権法に基づく人権と自己決定権の沖縄からの訴え	平和研究54
庄司 貴由	エルサルバドルPKO派遣への道程：国連エルサルバドル監視団(ONUSAL)と日本の対応	年報政治学2020(2)
添谷 芳秀	日本のインド太平洋外交と近隣外交	国際問題688
高良 沙哉	琉球/沖縄差別の根底にあるものは何か：憲法の視点を交えて	平和研究54
武田 知己	日本の「架け橋外交」戦略の戦前と戦後：未完の自画像	国際政治200
立川 京一	日本軍政期のフィリピンにおける陸軍の治安維持	安全保障戦略研究1(2)
田中 明彦	2020年の世界と日本	国際問題688

張 帆	戦後日本の現実主義を再考する：日中比較の視点から	国際政治200
鳥山 淳	沖縄をめぐる依存/自立の議論を再設定するための歴史的な文脈：1950～60年代の政治社会状況を中心に	平和研究54
中島 信吾、西田 裕史	航空自衛隊創設期の旧軍航空関係者の役割と米空軍の関与について	防衛研究所紀要22(2)
番定 賢治	国際連盟事務局における日本人事務局員：国際機構の「グローバル化」への模索	国際政治198
樋口 秀実	毛里英於菟の「東亜協同体」論からみた東アジアの地域秩序構想	アジア経済61(1)
彦谷 貴子	トランプ外交と向き合う日本外交	国際問題694
日田 大輔	陸上自衛隊の13個師団体制成立時の課題とその後の防衛力整備— 定数18万人の達成まで—	安全保障戦略研究1(2)
本多 倫彬	民主党政権による国際平和協力の再評価	年報政治学2020(1)
山田 哲也	日本の商業捕鯨再開とグローバル・ガバナンス	グローバル・ガバナンス6

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

青木 清	1965年しか見ない日本、「日帝」にこだわる韓国—「徴用工判決」の法的分析を通して	アジア研究66(4)
飯田 将史	人民解放軍から見た人工知能の軍事に対するインパクト	安全保障戦略研究1(2)
五十嵐 隆幸	蔣経国の行政院長期における国防建設(1972-1978)—「攻守一体」戦略に基づく「大陸反攻」と「台湾防衛」の態勢	アジア研究66(4)
伊豆山 真理	スリランカ、モルディブにおけるインドと中国の競争—インドの近隣諸国政策の視点から—	防衛研究所紀要22(2)
伊豆山 真理	国連海洋法条約とインド—「航行の自由」と沿岸国の安全保障利益の間—	安全保障戦略研究1(2)
猪俣 哲史	生産の「脱中国」は本当か：中国をめぐるグローバル・バリューチェーン再編の可能性	国際問題689
岩坂 将充	トルコ・北キプロス関係の変化と東地中海地域の安全保障	国際安全保障48(1)
大庭 三枝	日-東南アジア間の歴史認識をめぐる諸相	アジア研究66(4)
奥蘭 秀樹	文在寅政権による「正統性」の追求と日韓関係	アジア研究66(4)
川島 真	東アジアの歴史認識問題の共通性と多様性—日中・日台関係からの考察	アジア研究66(4)
佐竹 知彦	政権交代と日豪関係— 民主党と労働党政権時代の安全保障協力—	安全保障戦略研究1(1)
首藤 もと子	労働移動をめぐるASEANの地域ガバナンス：制度化の進展と課題	グローバル・ガバナンス6
庄司 智孝	「一帯一路」と「自由で開かれたインド太平洋」の間で—地域秩序をめぐる競争とASEANの対応—	防衛研究所紀要22(2)
杉浦 康之	中国の「日本中立化」政策と対日情勢認識—「断絶」情勢下での自民党分断工作(1958年5月-1959年11月)	安全保障戦略研究1(2)
鈴木 一人	ペルシャ湾の安全保障とその展望	国際問題688
鈴木 一人	国連イラン制裁の実効性	国際安全保障48(2)
高尾 賢一郎	サウジアラビアにとっての安全保障とムスリム同胞団	国際安全保障48(1)
高岡 豊	シリア紛争と非国家武装主体：「イスラーム国」の動員の特徴と限界	国際安全保障48(1)
武内 進一	アフリカ研究者の紛争研究：日本の国際政治学と地域研究	国際政治200
竹内 舞子	国連による北朝鮮制裁の有効性：その効果と課題	国際安全保障48(2)
田中 聡一郎	「北層」の地域概念の発展—地域機構RCDの結成と動向を事例として	アジア研究66(2)

玉田 芳史	2つの病と1つの封じ込め策：コロナ禍のタイ	国際問題697
玉水 玲央	オーストラリアとアンザス危機(一九八四—一九八六)：同盟瓦解危機における盟邦の認識と対応	国際政治199
趙 一中	北朝鮮核問題から見た中国の対安保理政策：「法的拘束力」と安全保障の観点による分析	国連研究21
辻田 俊哉	イスラエルの国家安全保障ドクトリンの再形成とその展開：「メドール委員会報告書」と「IDF戦略」を踏まえて	国際安全保障48(1)
中達 啓示	習近平政権の対外経済戦略：危機感と野心のはざままで	国際問題689
永野 和茂	カッチ・シンド国境問題におけるインド、パキスタンの国際関係—カッチ湿地紛争と国境画定過程の事例分析	アジア研究66(3)
中溝 和弥	コロナ禍と惨事便乗型権威主義：インドの試練	国際問題697
西野 正巳	20世紀後半のエジプトにおける反イスラム主義思想——ファラグ・フォーダの『隠された真実』を事例に——	安全保障戦略研究1(2)
平岩 俊司	序文(特集：東アジアと歴史認識・移行期正義・国際法—徴用工問題を中心として—)	アジア研究66(4)
藤井 元博	中国国民党軍の終戦処理—対日反攻から接收へ—	安全保障戦略研究1(1)
堀井 伸浩	中国の気候変動対策と国際秩序形成に向けた野望	国際問題692
堀坂 浩太郎	感染爆発のブラジル：独断専行の右派大統領とリベラルな民主主義体制の相克	国際問題697
牧野 久美子	新型コロナウイルスに揺れる南アフリカ	国際問題697
松田 康博	新型コロナウイルス感染症と中国の対外関係悪化過程	国際問題695
三竝 康平	中国のイノベーション戦略と二重の不確実性	国際問題696
三村 光弘	朝鮮民主主義人民共和国に対する制裁の現状とその影響	国際安全保障48(2)
八塚 正晃	人民解放軍の智能化戦争—中国の軍事戦略をめぐる議論—	安全保障戦略研究1(2)
山田 哲也	「徴用工」判決の国際法上の論点	アジア研究66(4)
横田 貴之	序文(特集「イスラーム国」後の中東地域における安全保障)	国際安全保障48(1)
横田 貴之	エジプトにおけるイスラーム主義の安全保障化：スィーサー体制によるムスリム同胞団対策を中心に	国際安全保障48(1)
吉川 卓郎	ヨルダンにおけるイスラーム主義の安全保障化：ムスリム同胞団とISの事例から	国際安全保障48(1)

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

油本 真理	腐敗防止の国際規範とロシア：公職者の資産公開制度を事例として	国際政治199
泉川 泰博	歴史的必然としてのトランプ外交とアメリカの行方	国際問題694
板橋 拓己	ドイツ統一交渉と冷戦後欧州安全保障秩序の端緒：NATO不拡大をめぐる西ドイツ外交	国際政治200
井村 進哉	コロナ禍下のアメリカ経済：現状と展望	国際問題696
岩下 明裕	ソ連/ロシアの対中・対日外交から学ぶべき教訓	国際政治201
宇山 智彦	ペレストロイカ期中央アジアにおける共和国の自立と民族問題の関係：「政治の場」の浮上と遠心化・多様化	国際政治201
遠藤 乾	ヨーロッパの対応：コロナ復興基金の誕生	国際問題695
大久保 明	パリ講和会議イギリス代表団の「ウィルソン主義」	国際政治198
大鳥 由香子	ウィルソン、ウィルソン主義と米ビザ制度	国際政治198
太田 宏	気候変動問題とトランプ政権のアメリカ第一主義	国際問題692
岡田 美保	日ソ国交回復交渉の再検討：ソ連による日米安保の「受容」	国際政治200

荻野 晃	ハンガリーにおける非リベラル・デモクラシーと外交・安全保障政策	国際安全保障48(3)
奥田 俊介	フォード財団と一九五〇年代のアフリカを巡る冷戦：財団の「対アフリカ教育援助計画策定過程」に着目して	国際政治199
小尾 美千代	アメリカにおける再生可能エネルギー市場の構築と気候をめぐるグローバル・ガバナンス	グローバル・ガバナンス6
河本 和子	戦間期ソ連におけるコンセプションと対外経済関係：外国人の権利を通して	国際政治201
菊地 茂雄	沿海域作戦に関する米海兵隊作戦コンセプトの展開—「前方海軍基地」の「防衛」と「海軍・海兵隊統合(Naval Integration)」—	安全保障戦略研究1(1)
草野 大希	ウィルソンのリベラル介入主義の再考：現代のリベラル介入主義におけるウィルソン主義の展	国際政治198
粕谷 真司	サッチャー政権初期イギリスと欧州政治協力：「ロンドン報告」の作成過程、一九八〇—一九八一年	国際政治199
小泉 悠	ロシアの軍事戦略における中・東欧：NATO東方拡大とウクライナ危機のインパクト	国際安全保障48(3)
合六 強	長期化するウクライナ危機と米欧の対応	国際安全保障48(3)
小久保 康之	蜜月時代に入った日EU関係	国際問題691
小林 正英	英国EU離脱後の米欧関係：重層的な潮流	国際問題691
坂口 賀朗	最近のロシアにおける将来戦をめぐる議論	防衛研究所紀要22(2)
佐々江 賢一郎	トランプ外交の彼方にあるもの	国際問題694
佐橋 亮	米中対立と日本：関与から戦略的競争に移行するアメリカを中心に	国際問題688
志田 淳二郎	クリミア併合後の「ハイブリッド戦争」の展開：モンテネグロ、マケドニア、ハンガリーの諸事例を手がかりに	国際安全保障47(4)
篠崎 正郎	イギリス帝国の終焉と現地の危機：ポスト帝国時代のヨーロッパ域外政策、一九七五—八二年	国際政治199
瀬岡 直	パレスチナ紛争に関するアメリカの拒否権行使に対する批判的検討：国際連合における拒否権の本質的制約の視点から	国連研究21
高橋 杉雄	21世紀の米国の国防戦略：変化と継続	国際問題694
高橋 若菜	脱炭素経済に向けたEUの挑戦と課題：マルチレベルガバナンスを通じたエコロジー的近代化への歩み	国際問題692
高原 秀介	ウッドロー・ウィルソン政権の対ロシア政策：北ロシア出兵・シベリア出兵をめぐる理想と現実	国際政治198
高屋 定美	EUの結束は綻びるのか？：ブレグジット、COVID-19に揺れるEU	国際問題696
田中 素香	ブレグジット後のEU	国際問題691
田中 俊郎	EUと中国：EUはどうか中国と向かい合おうとしているのか	国際問題691
田中 亮佑	危機管理と能力向上におけるEU・英国関係—ブレグジット後の欧州の「戦略的自律」の行方—	安全保障戦略研究1(1)
地田 徹朗	ペレストロイカと環境問題：「アラル海問題」をめぐるポリティクス	国際政治201
鶴岡 路人	米欧関係の展開と日本：変容する日米欧関係のダイナミズム	国際問題688
西崎 文子	序章（「ウィルソン主義」の一〇〇年）	国際政治198
花田 智之	ソ連軍指導部の対日認識について—第二次世界大戦期を中心に—	防衛研究所紀要22(2)
馬場 優	オーストリア=ハンガリー帝国の解体とウィルソン主義：帝国存続の切り札としての「四カ条」	国際政治198
東野 篤子	欧州国際秩序における中・東欧諸国：地域内のダイナミズムと外部アクターとの相互作用	国際安全保障48(3)
広瀬 佳一	「狭間のヨーロッパ」の安全保障	国際安全保障48(3)
藤本 健太郎	ソ連の対日政策におけるアメリカファクター（一九二〇—一九三三）	国際政治201

細川 真由	フランスの国際連盟政策と「ウィルソン主義」、一九一九-一九二四年	国際政治198
松井 康浩	序論(ソ連研究の新たな地平：記憶・遺産・帝国)	国際政治201
松本 栄子	米国の核不拡散に向けた経済制裁	国際安全保障48(2)
水谷 仁	マックス・ヴェーバーの国際政治思想における帝国主義論：グローバルな時代のドイツ・ナショナリストの陥穽	年報政治学2020(1)
宮田 智之	アメリカにおける非介入主義勢力の結集	国際問題694
森井 裕一	EU加盟国の課題	国際問題691
安井 明彦	トランプ政権の通商政策と国内政治の変化：保護主義の今後を占う視点	国際問題689
山岸 敬和	新型コロナウイルス感染症とトランプ的アメリカ	国際問題695
李 優大	ソヴェト・ロシアの対イラン外交の始まり	国際政治201